

Commvault Complete™ Backup & Recovery

オンプレミスとクラウド環境を網羅する
完全なデータ保護ソリューション

バックアップとリカバリ

データは急速に増え、同時にデータに対する脅威とリスクも増えていきます。IT組織は重要な問題を考慮に入れながらも、多額の費用をかけることなくその役割をきちんと果たすことのできる使いやすいデータ保護ソリューションを導入する必要があります。Commvault Complete™ Backup & Recoveryは、オンプレミスからクラウドまでデータがどこにあっても完全に網羅することができるデータ保護ソリューションです。

なにを保護しますか？

物理/仮想サーバーだけでなく、ノートブックやデスクトップなどクライアントPCのデータ保護にも対応しています。ひとつの製品で、ファイルシステム、データベース、アプリケーションといった企業のさまざまなデータの保護/管理にご利用いただけます。

どのように保護しますか？

ひとつの製品でデータのバックアップ/リカバリから、アーカイブ、レプリケーション、スナップショット管理まですべての機能を提供します。

アーカイブを利用することで、古くなったデータをプライマリからセカンダリストレージへ移動することができ、プライマリストレージの有効活用を可能にします。またバックアップ対象データを減らし、バックアップ時間の短縮を図ることができます。

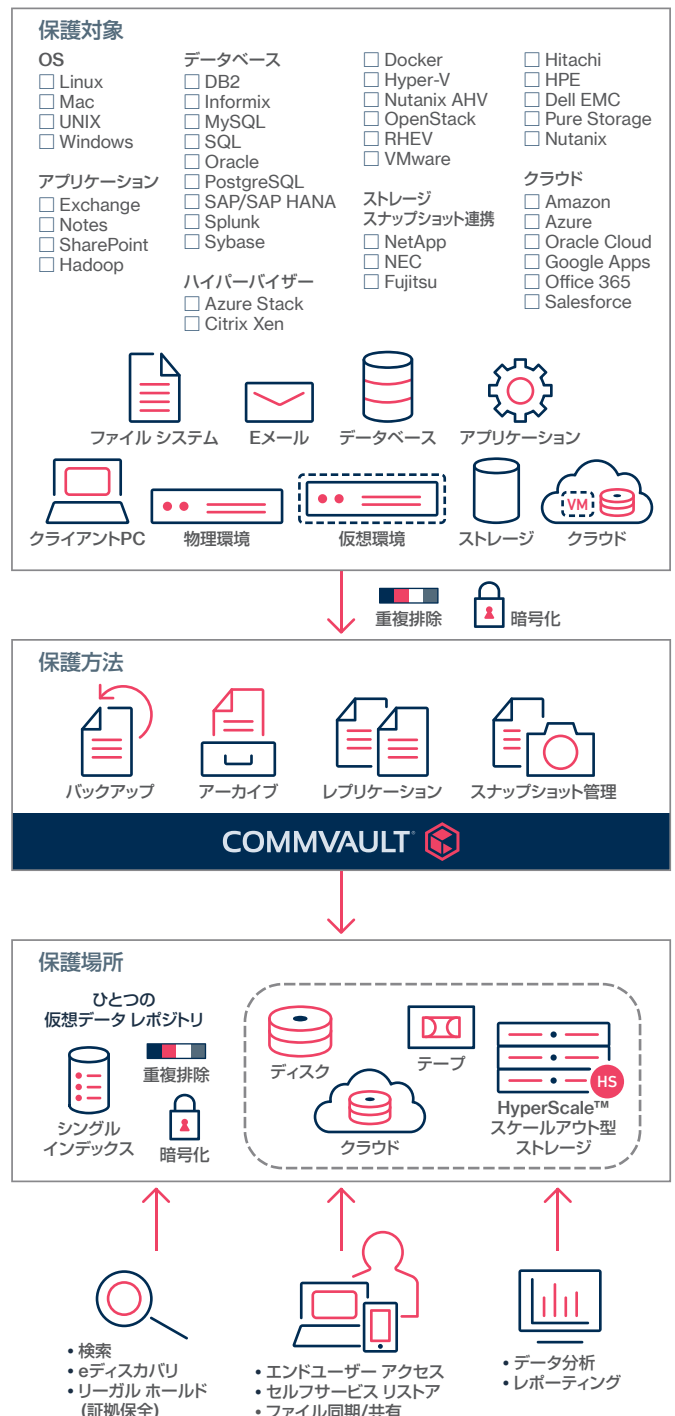
どこに保護しますか？

Commvaultで保護したすべてのデータは、ContentStoreと呼ばれるひとつの仮想データレポジトリに、重複排除/暗号化して保存されます。これにより、ストレージを無駄なく使用し、データをセキュアに保管することができます。データ保管先ストレージには、ディスクやテープだけでなく約40社のクラウドをご使用いただけます。

Commvaultの重複排除機能は、ソフトウェアだけでなく、ソース側、ターゲット側、もしくはその両方など、最も意味のある所でのデータ重複排除を可能にします。ソース側でデータ重複排除すれば、ユニークなデータのみを転送することができ、バックアップ時のネットワークトラフィックを削減します。ターゲット側でデータ重複排除すれば、バックアップ対象クライアントのCPU使用率を下げるすることができます。

保護したデータを活用しますか？

Commvaultでデータ保護することにより、企業中のすべてのデータにインデックスを作成し、仮想的にひとつの場所に集めることができます。これにより、データの一括横串検索が可能になり、セルフサービスリストア、コンプライアンス、データ分析等に活用することが可能になります。



マルチクラウド バックアップ

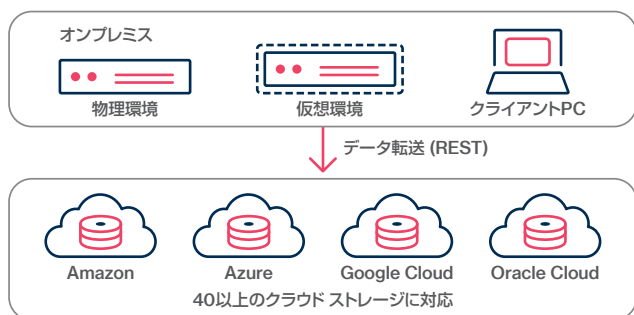
今日、80%以上の企業がマルチクラウド環境を採用しています。今マルチクラウドを使用していなくても、いずれ複数のクラウドを使用する可能性が高いと考えられます。

Commvaultは、オンプレミスからクラウドへのデータのバックアップ/リカバリだけでなく、クラウド内やクラウド間でのバックアップ/リカバリにも柔軟に対応できるハイブリッドクラウド環境を可能にします。

- マルチクラウド データ管理**
 ひとつの製品で、さまざまなクラウドやオンプレミスにあるデータを移動、管理、使用することを可能にします。
- マルチクラウド データ移行**
 クラウドへ、クラウドから、クラウド間でデータを簡単に移行します。クラウドとのネイティブ連携とデータ暗号化で、アプリケーション、データベース、仮想マシンの高速でセキュアなマイグレーションを実現します。
- マルチクラウド ディザスタ リカバリ**
 複数のクラウド間でのディザスタ リカバリとテストの自動化を、低コストに、手間を掛けず、低リスクで実現します。データベースのフルリカバリから、ひとつのファイルのリカバリまで、高速、柔軟で確実なリカバリを可能にします。
- Office 365データ保護**
 大切なOffice 365のデータをクラウドへまたはオンプレミスのストレージへバックアップ/リストアすることが可能です。

クラウド ストレージのサポート

Commvaultは、パブリッククラウド (Amazon, Azure, Google Cloud, Oracle Cloudなど) からプライベートクラウドまで40以上のクラウドストレージに対応しています。REST API標準対応でクラウドストレージへ直接アクセスしデータを保存することが可能です。重複排除したままデータ転送が可能なので、ネットワーク負荷も軽減します。



マルチテナント機能を使ったBaaSバックアップ サービス

プライベート/パブリッククラウドやデータセンターを使ってBaaSバックアップサービスを展開する際、各部署またはテナントの管理者ごとに、リソースの利用制限やアクセスコントロールをかけることができるので、バックアップサーバー1台で複数の部署や顧客に、バックアップサービスを提供することが可能です。様々なファイアウォール構成に対応できるので、ネットワーク経由、別の場所にあるデータのバックアップサービスも可能です。

仮想マシンの保護

仮想化はデータやアプリケーションの急増に対し大きな威力を発揮しますが、同時に、プライベートクラウドとパブリッククラウドにまたがって仮想サーバーやストレージ、アプリケーションを作成、実装することで新たな課題も生み出します。

オンプレミスのVMも、クラウド上のVMもまとめてバックアップ

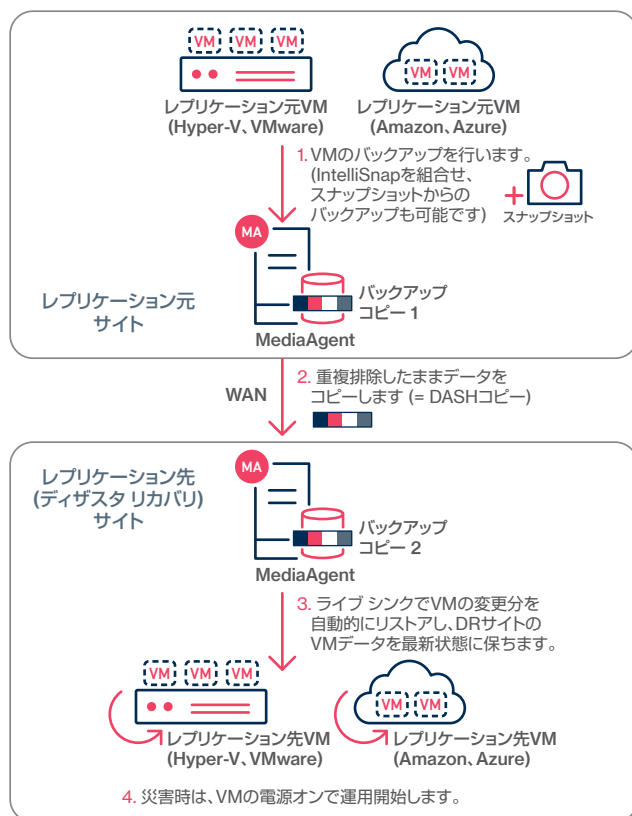
Commvaultなら、オンプレミスのVMも、クラウド上のVMも自動的に検出しまとめてバックアップ、リカバリ、管理することができます。VMのバックアップデータは、クラウド内に保存することも、オンプレミスに保存することも可能です。ひとつの製品でデータを管理することで、データのサイロ化、冗長なインフラストラクチャ、VMスプロール現象 (無秩序な増殖) などの問題を解決することができます。

数百台レベルの大規模環境のVMを保護する場合は、IntelliSnap®でストレージのスナップショット機能と連携してVMデータ保護を行うことで、本番環境のVMへほとんど影響を与えることなく数分単位でデータ保護を完了することができます。

ライブシンクVMレプリケーションでDRサイトの構築/維持

DRサイトにバックアップデータを保管しておくだけでなく、いざという時、VMの電源をオンするだけで運用を開始したいという場合、CommvaultのライブシンクVMレプリケーション機能を使えば、本番データに1回アクセスするだけで、バックアップとディザスタリカバリ (DR) 対策が同時に行えます。

ライブシンクは、VM (Amazon, Azure, Hyper-V, VMwareなど) の変更分だけを自動で転送し、DR用のVMIにリストアし続けることで、DR用のVMを継続的に最新状態に更新しておくことができます。

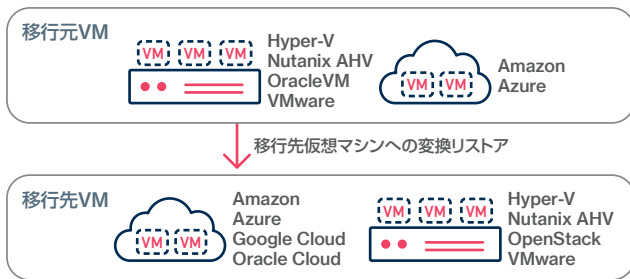


※対応可能な組合せはお問合せください。

仮想マシンのクラウド移行

Microsoft Hyper-VやVMwareなどオンプレミスの仮想マシンを、AzureやAmazonクラウドへ移行することができます (クラウドからオンプレミスへ、クラウドから別のクラウドへ仮想マシンを移行することも可能です)。Commvaultは、リストア機能の一部としてこの移行機能を実装しています。そのため仮想マシンのバックアップデータのリストア先として移行先のクラウドを選択するだけで、Commvaultがオンプレの仮想マシンを自動で移行先のクラウドインスタンスに変換し、仮想マシンのクラウドへの移行を可能にします。

Commvaultなら、クラウド上の仮想マシンもバックアップできるので、移行後も仮想マシンをバックアップし続けることができます。



※対応可能な組合せはお問合せください。

アプリケーションとデータベース

企業のシステム環境には多くのデータベースやアプリケーションがあり、古いものと新しいものが混在しています。これらデータを保護するためにいくつもの製品を導入する必要はありません。

Commvaultなら、分散型アプリケーションまで含めたさまざまなデータベースとアプリケーションに対応しています。その対応の幅広さと深さはほかに類がありません。クラウドへのワークロードのマイグレーション、効率的なデータベースのバックアップ、データへのアクセス高速化などすべてひとつのソリューションで実現します。

大規模環境のデータ保護にスナップショット連携

CommvaultのIntelliSnap®は、ハードウェア スナップショット管理機能で、ユーザーが自分でスクリプトを作成することなくストレージのスナップショットと、アプリケーションやハイパーバイザーを連携し、整合性のあるデータ保護を行うことを可能にします。

IntelliSnapでスナップショットを作成すると、そこに含まれるアプリケーションや仮想マシンの情報をカタログ化することができ、2次ディスクやテープにバックアップを取得しなくても、スナップショット内のデータを検索することが可能になります。

またIntelliSnapで作成したスナップショットからバックアップを取得できるので、本番環境にほとんど影響を与えることなく、テープやクラウド等の外部メディアへデータ保管が行えるようになり、ストレージシステムのハードウェア故障に備えることができます。

富士通、日立製作所、Dell、EMC、HPE、IBM、NetApp、Nimble Storage、Pure Storage、DataCore等、ほぼすべての主要ストレージ製品に対応しています。

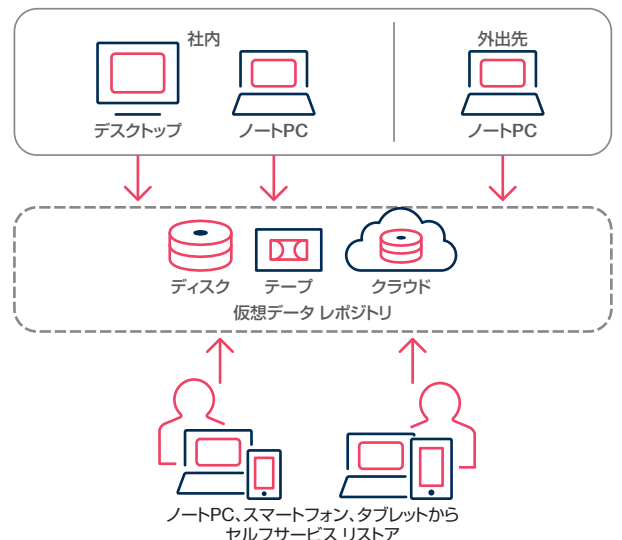
エンドポイント データ保護

企業のデータの約半分がデスクトップやラップトップ、モバイル デバイス上にあると言われており、そこには重要な顧客情報や知的財産が含まれています。またエンドポイント端末はランサムウェアなどのサイバー攻撃の被害にあう可能性が高いため、エンドポイントのデータをバックアップしておくことは非常に大切です。

クライアントPCの自動バックアップとセルフサービス リカバリ

Commvault Complete™ Backup & Recoveryは、1台のバックアップサーバーで、物理/仮想サーバーだけでなく、ノートPCやデスクトップなどクライアントOS (Windows/Linux/Mac) のデータ保護もまとめて行えます。エンドポイント向けのデータ保護に下記機能を提供します。

- 自動バックアップ**
 Commvaultのエンドポイント保護は、ユーザーが意識することなく実行可能なノートPC/デスクトップに適したスケジューリング機能を備えており、データがどこでどのように作られても、すべてのデータを見つけ、自動的に、重複排除バックアップすることができます。
- セルフサービス リストア**
 バックアップしたデータへ、WEBインターフェースやスマートフォンやタブレット等のモバイル アプリから、SSL接続でのセキュアな暗号化/バックアップ ストリームを使ってVPN接続なしにアクセス可能です。ユーザーは自分のデータへいつでもどこからでもIT管理者を介することなくアクセスできるので、必要なデータを迅速にセルフサービスでリストアすることができます。
- データ損失防止 (DLP: Data Loss Prevention) 機能**
 定期的にファイルをスキャンし暗号化したり、ノートPCの盗難/紛失の際はデータをリモートから削除したりすることが可能です。
- Commvault Driveを使ったファイル共有/同期機能**
 外出先から自分のデータへアクセスし、情報を検索して取り出したり、同僚や社外のチームとデータの共有/同期を行ったりすることを可能にします。



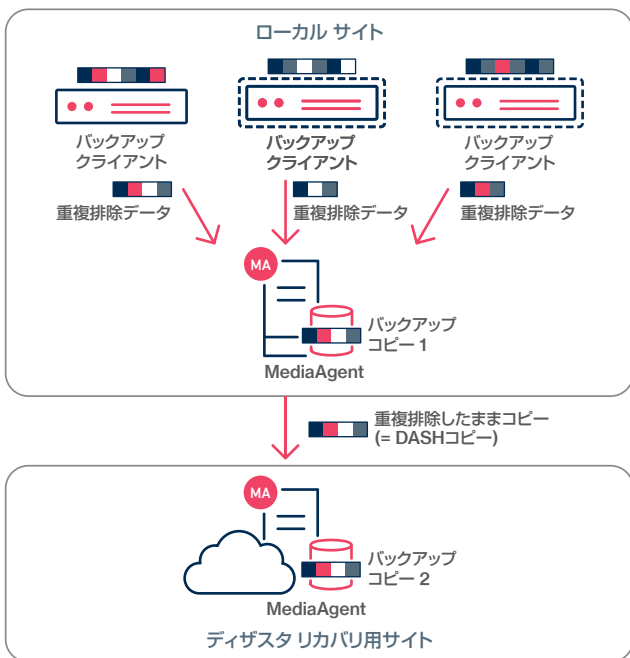
ディザスタ リカバリ

自然災害、ハードウェア故障、情報漏洩、ランサムウェア攻撃など避けることのできないデータ損失リスクはさまざまです。大切なことはこれらリスクに備え、問題が発生した時すぐにデータが復旧できるような万全のディザスタ リカバリ プランを用意しておくことです。

すべてのデータの重要性は等しく同じではないので、SLA (サービス品質保証契約) に合わせ、リカバリ要求とコストのバランスを取ることが必要です。リカバリ時間はデータの重要性と連動すべきですが、リカバリ手順が複雑にならないようひとつのソリューションで行うべきです。Commvaultならデータがどこにあっても、SLAに合わせたさまざまなリカバリの選択肢を提供します。

ディザスタ リカバリ ソリューションに有効なDASHコピー

DASH (Deduplication Accelerate Streaming Hash) コピーは、重複排除フォーマットを維持したまま、次階層のストレージへデータをコピーすることを可能にするCommvaultのテクノロジーです。例えば、バックアップデータをディザスタ リカバリ (DR) 利用のため、遠隔サイトへコピーしたいという場合、データをリハイドレーション (= 重複排除したコピーを取り出し、元の形に戻す処理) する必要なく、重複排除したままデータをコピーすることができます。この機能により、データ コピーの際、余計なCPU/ネットワーク/ストレージリソースを消費することなく、効率的で現実的なDRソリューションの実現を可能にします。



スケールアウト型ストレージ

スケールアップ型のストレージでは、データが増えると、またさらに大きなシステムへ交換しなければならないという問題が発生します。スケールアップ型ではなく、スケールアウト型のアーキテクチャを採用することで、必要なときに必要なだけストレージをシームレスに拡張することが可能になります。またこの手法は、ストレージの拡張性の問題を解決するだけでなく、コストの削減、高い信頼性、予測可能なパフォーマンスも実現します。

Commvault HyperScale™ ソリューション

Commvault HyperScale™ ソリューションは、Commvault Complete™ Backup and Recoveryプラットフォーム上に構築し、クラウドのようなスケールアウト型のバックアップ ストレージ プールをオンプレミスで提供します。Commvault HyperScale™ の実装方法は、ソフトウェア型またはアプライアンス型から選択いただけます。

- Commvault HyperScale™ ソフトウェア**
 動作検証済みハードウェア構成からサイズとモデルを自由に選択し、短期間でCommvault HyperScale ソフトウェアを実装することができます。エンタープライズ マーケット向けで、ペタバイトクラスまで拡張可能です。
- Commvault HyperScale™ アプライアンス**
 Commvault社が、コンピュータ、ストレージ、Commvaultソフトウェアをひとつのオールインワン アプライアンスで提供します。中規模から大規模マーケット向けで、29TBから数百TBクラスまで拡張可能です。



Commvault HyperScale Appliance 1300
 • 実効容量 29~87TB
 • 中規模~大規模環境用



Commvault HyperScale Appliance 3300
 • 実効容量 173~259TB
 • 大規模~超大規模環境 または MSP用

さらに詳しい情報は、www.commvault.co.jp/products/commvault/complete-backup をご覧ください。